

YAMANASHI

山梨県の新たな挑戦

～介護離職ゼロ社会の実現に向けて～

山梨県ケアラー支援推進本部

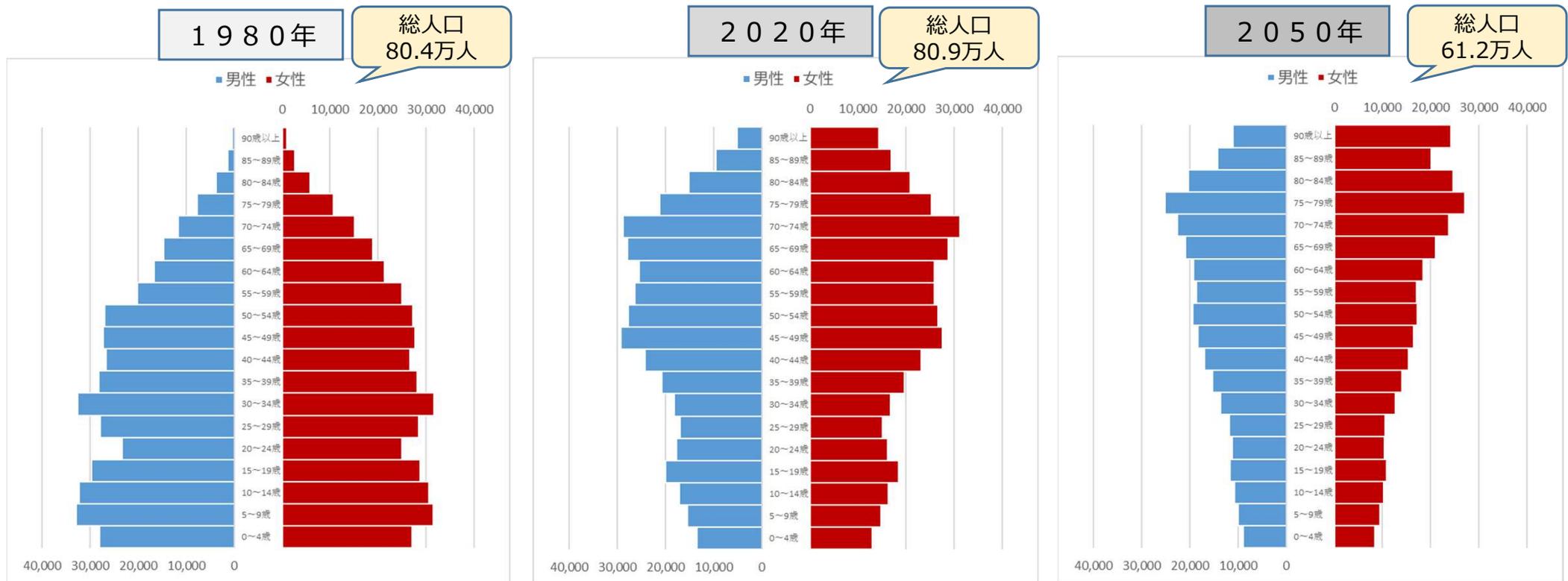
人口ピラミッドの変遷と、そこに潜む問題

- 1980年と2020年の総数は同じ「80万人」ではあるが、40年間で年齢構成は大きく変化。
- 人口ピラミッドは若年層が厚い「三角形」から高齢者層が多い「逆三角形」へ。

子ども・現役世代が多い「三角形型」

少子高齢化が加速的に進行

「逆三角形型」の老いた社会へ



出典：国勢調査結果（2050年は国立社会保障・人口問題研究所R5地域別推計）

- 人口減少はかならず「高齢化」を伴う。
- 消費者の減少 × 消費意欲の低い高齢者の増加 ⇒ 国内マーケットの縮小が加速的に進行するおそれ
- 働き手も社会の担い手も減少 ⇒ 産業活力の停滞・地域機能の低下で「貧しく暮らしにくい社会」へ。

ケアラーとは

高齢、身体上又は精神上の障がい、疾病、その他の理由により援助を必要とする家族等身近な人に対し、無償で介護、看護、日常生活上の世話その他の援助を提供する者



障害のあるこどもの子育て・障害のある人の介護をしている



健康不安を抱えながら高齢者が高齢者をケアしている



仕事と病気の子どもの看病でほかに何もできない



仕事を辞めてひとりで親の介護をしている



遠くに住む高齢の親が心配で頻繁に通っている



目を離せない家族の見守りなどのケアをしている



アルコール・薬物依存やひきこもりなどの家族をケアしている

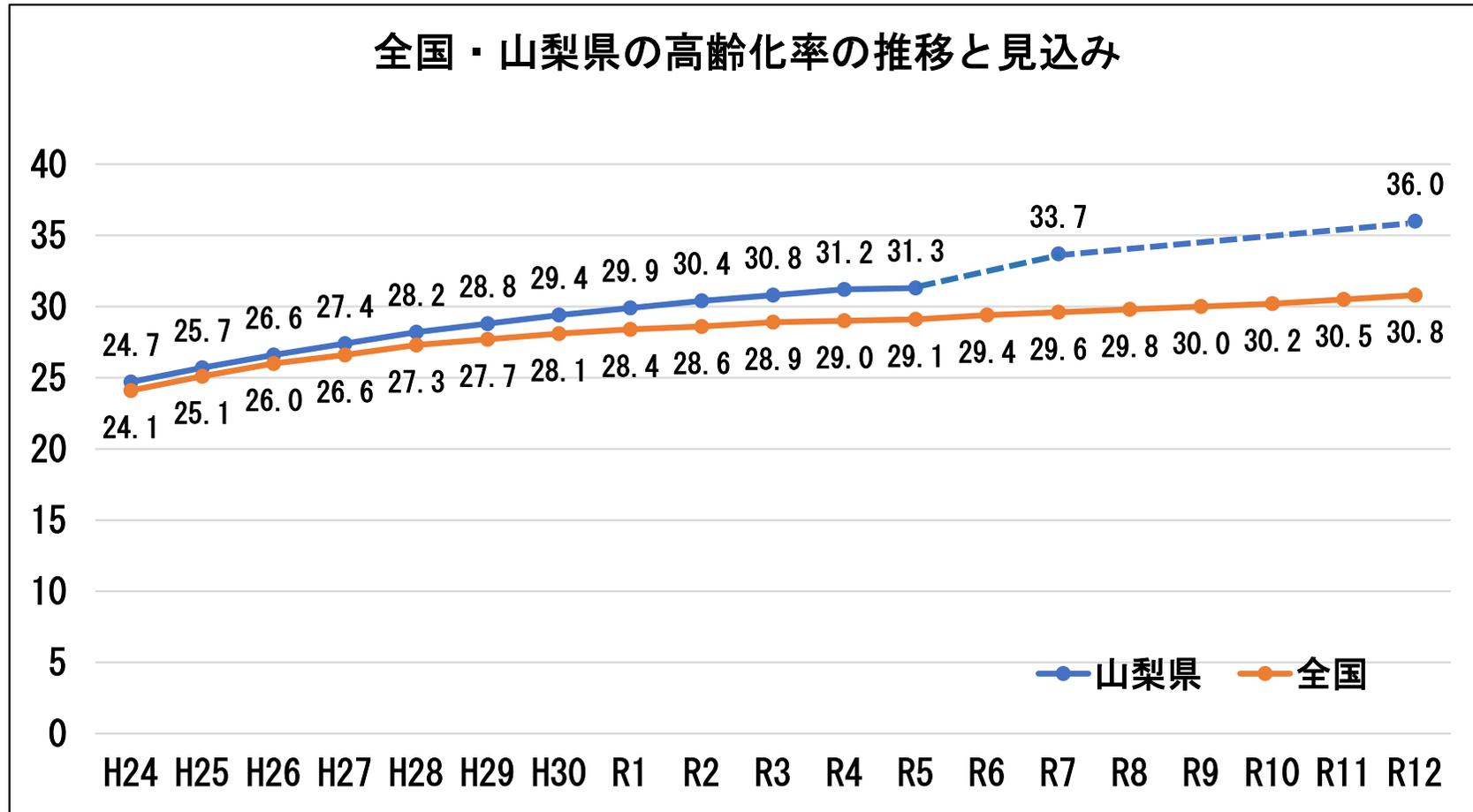


障害や病気の家族の世話や介護をいつも気にかけている

(出典：一般社団法人 日本ケアラー連盟)

高齢化率

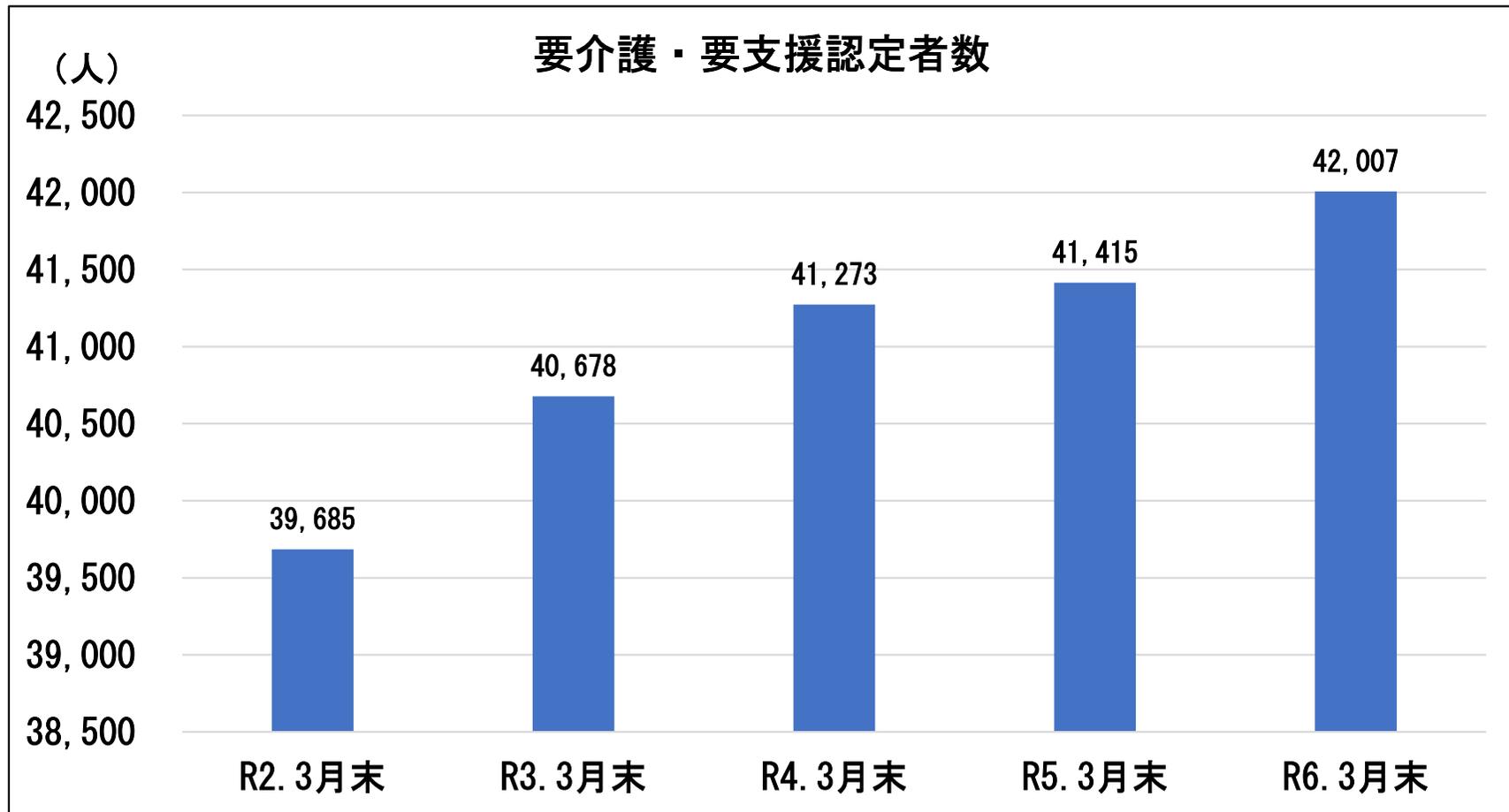
- 本県の高齢化率は年々増加傾向にあり、全国よりも高い割合で進んでいる。



(出典：山梨県健康長寿推進課 高齢者福祉基礎調査)

要介護・要支援認定者数

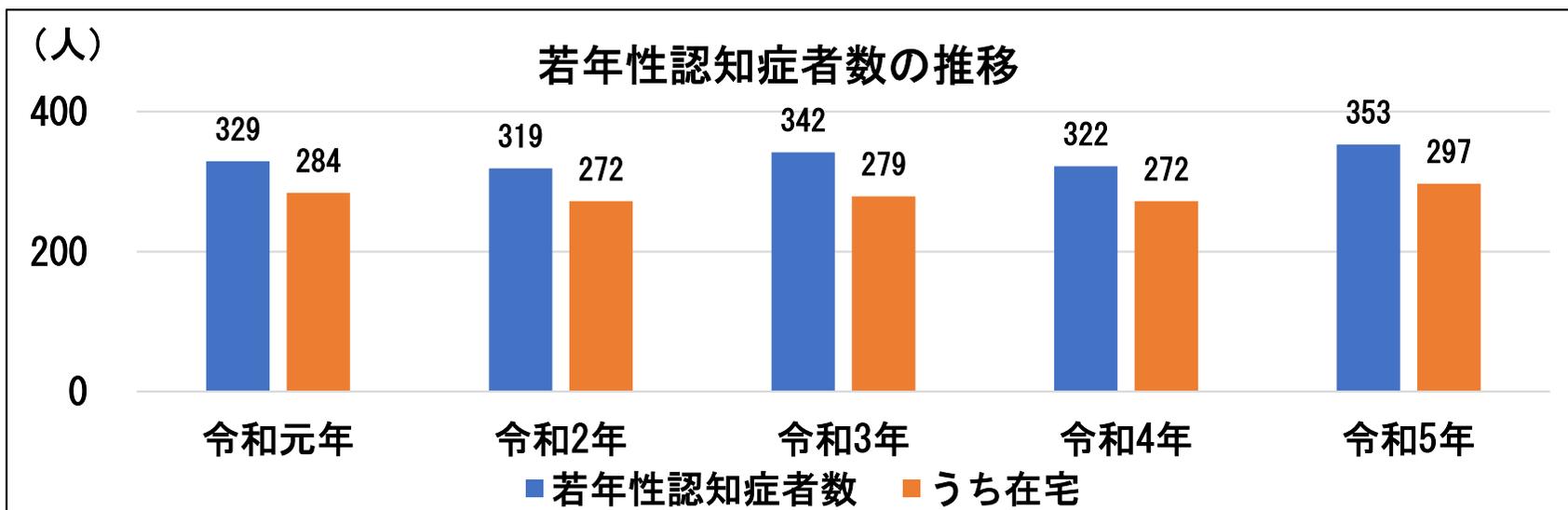
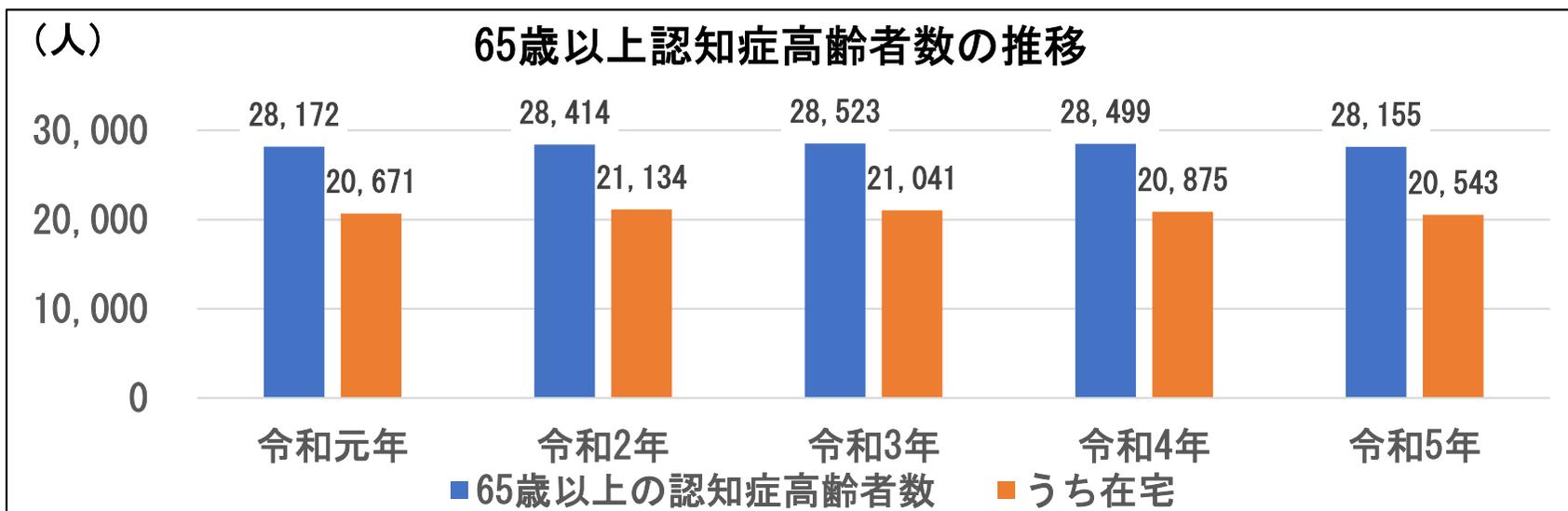
- 高齢者人口の増加に伴い、介護保険制度における要介護または要支援の認定を受けた人は年々増加している。



(出典：厚生労働省 介護保険事業状況報告)

認知症患者数

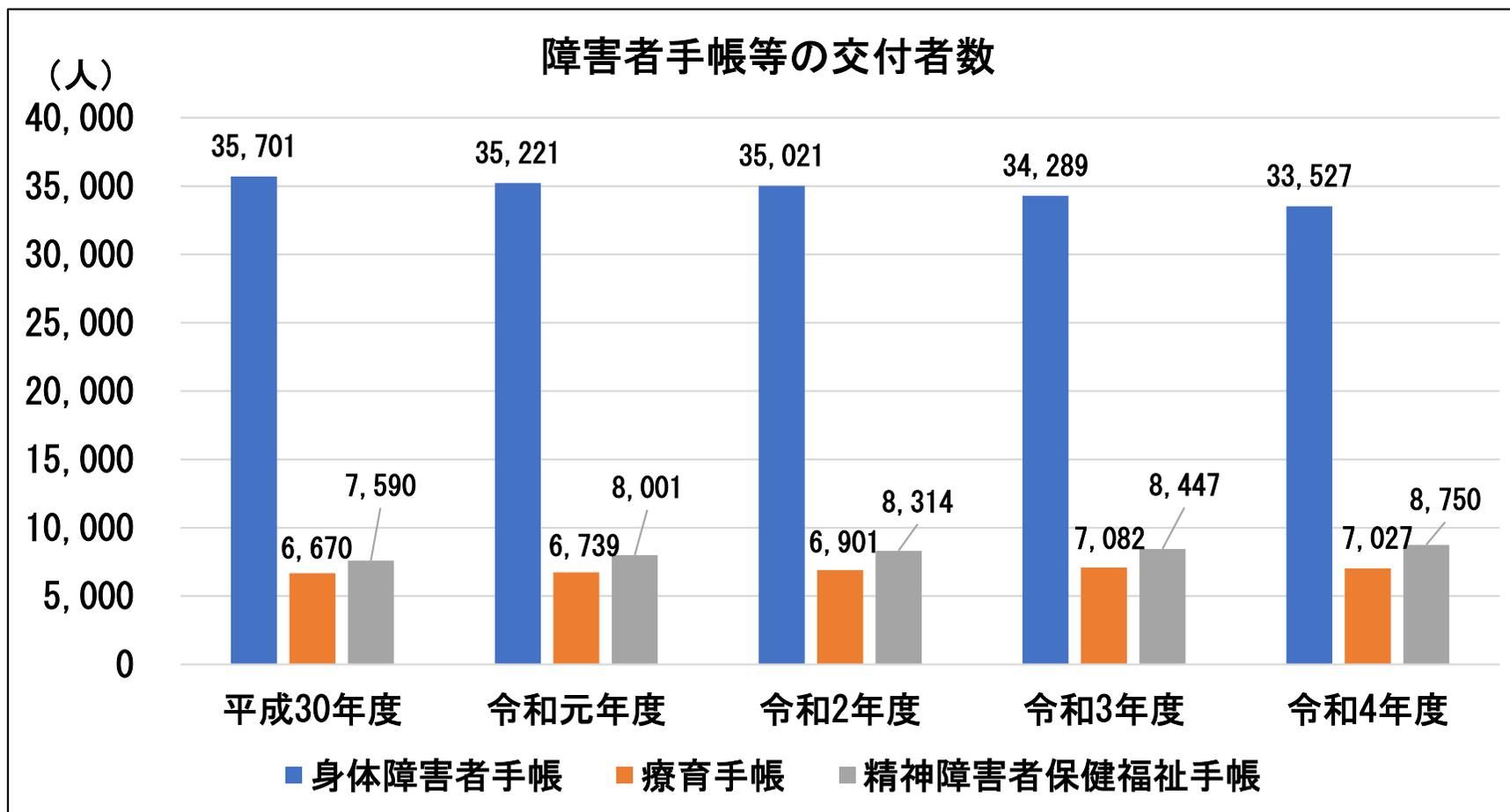
- 認知症患者数は高齢者では増減を繰り返しているが、若年性では増加傾向にある。



(出典：山梨県健康長寿推進課 高齢者福祉基礎調査)

障害者手帳等交付者数

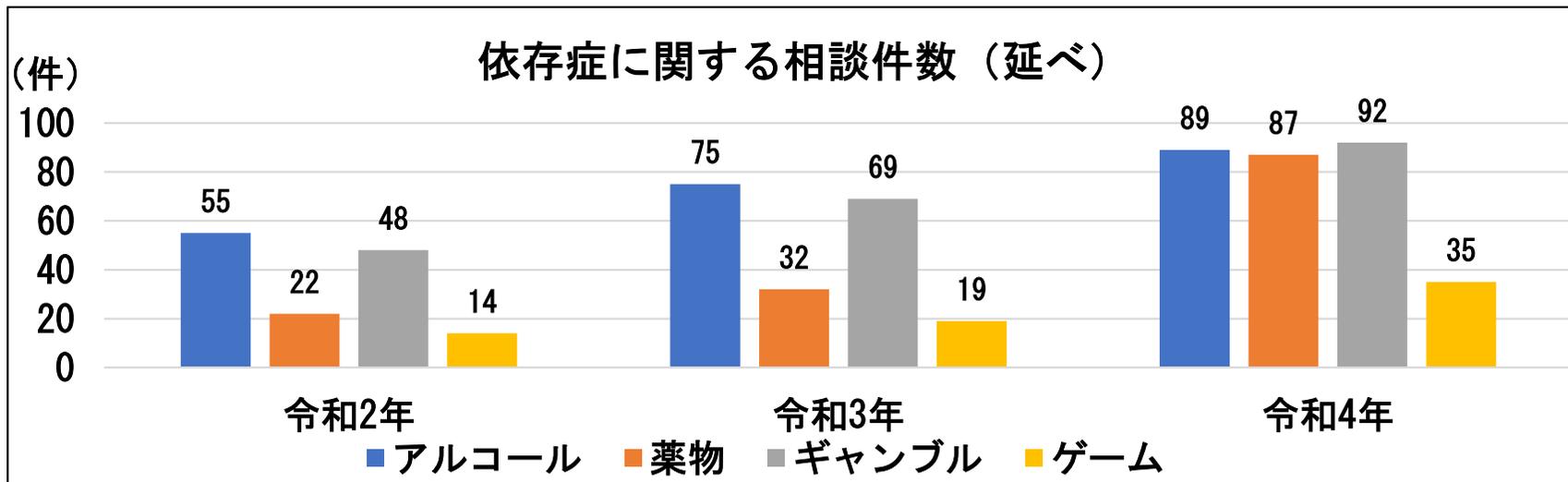
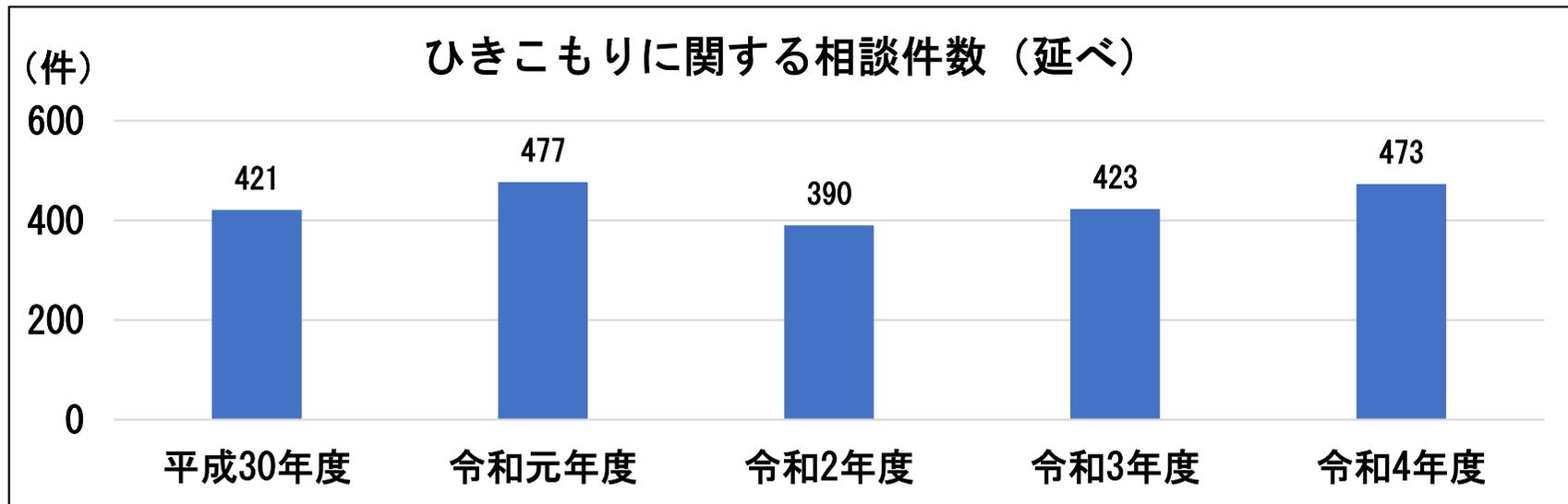
- 身体障害者手帳交付者は若干減少傾向にあるが、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳交付者数は増加している。



(出典：身体障害者手帳－県障害福祉課調べ・甲府市府市福祉保健部福祉保健総室障がい福祉課調べ
療育手帳－県障害福祉課調べ
精神障害者保健福祉手帳－県精神保健福祉センター所報)

ひきこもり及び依存症相談件数

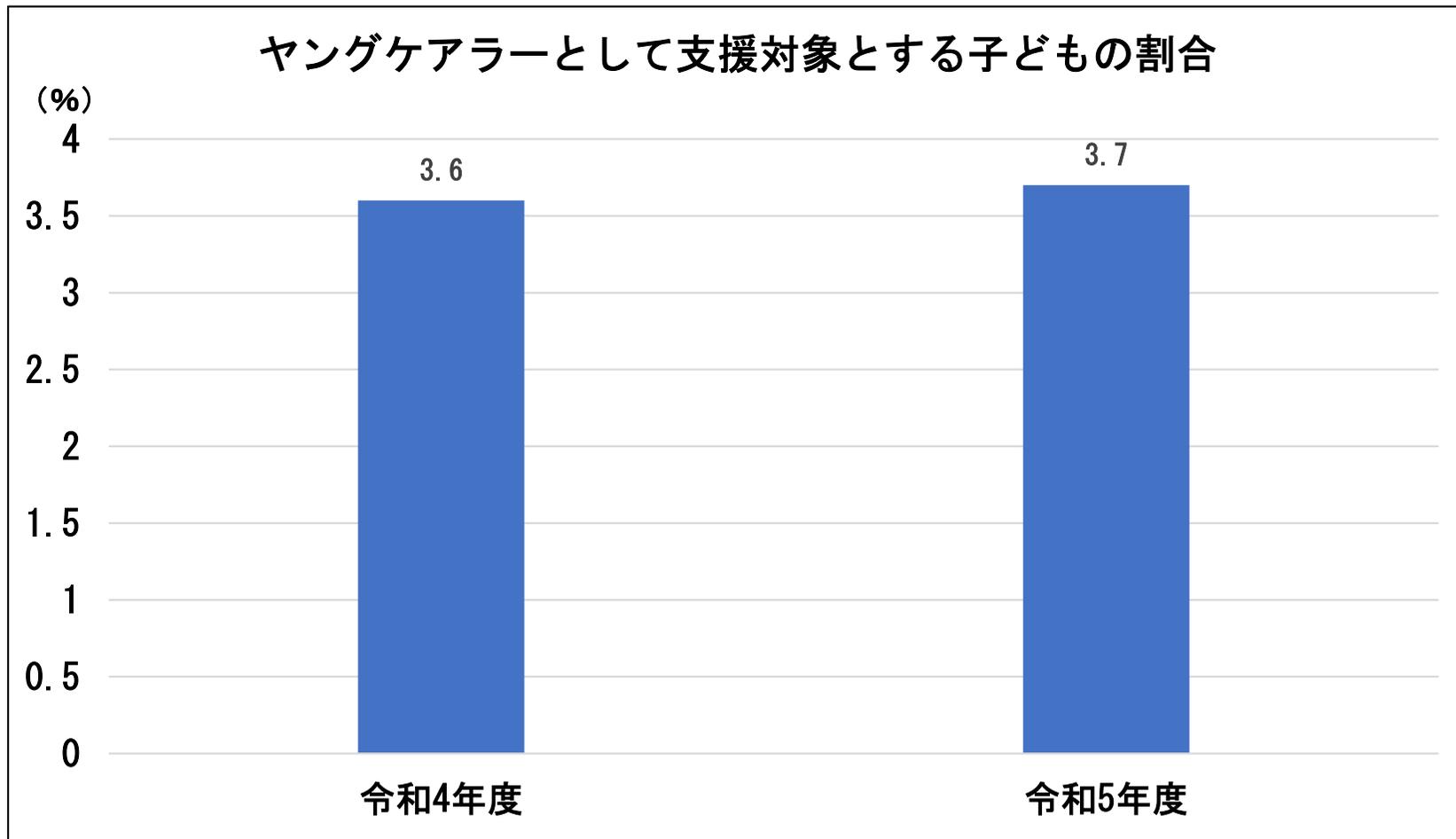
- ひきこもりの相談件数は、令和2年度に減少したものの、徐々に増加している。
- 依存症に関する相談件数も増加傾向にある。



（出典：県精神保健福祉センター所報）

ヤングケアラー

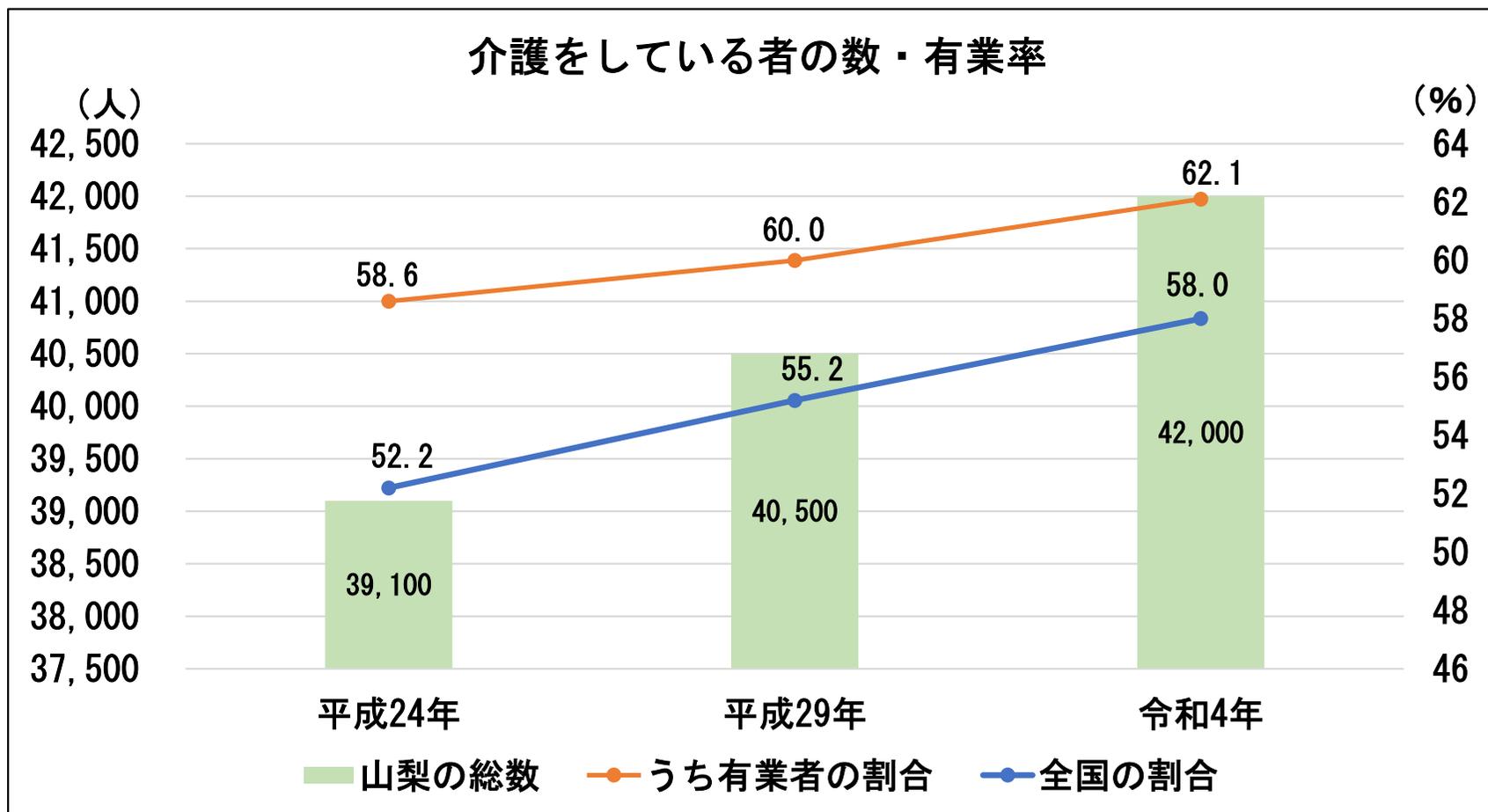
- 小6、中学生、高校生（約5万3千人）を対象に調査。
- 令和5年度調査では、3.7%（27人に一人）が支援対象とする子どもに該当。



（出典：山梨県子ども福祉課 ヤングケアラーの実態に関する調査報告書）

介護している者の有業率

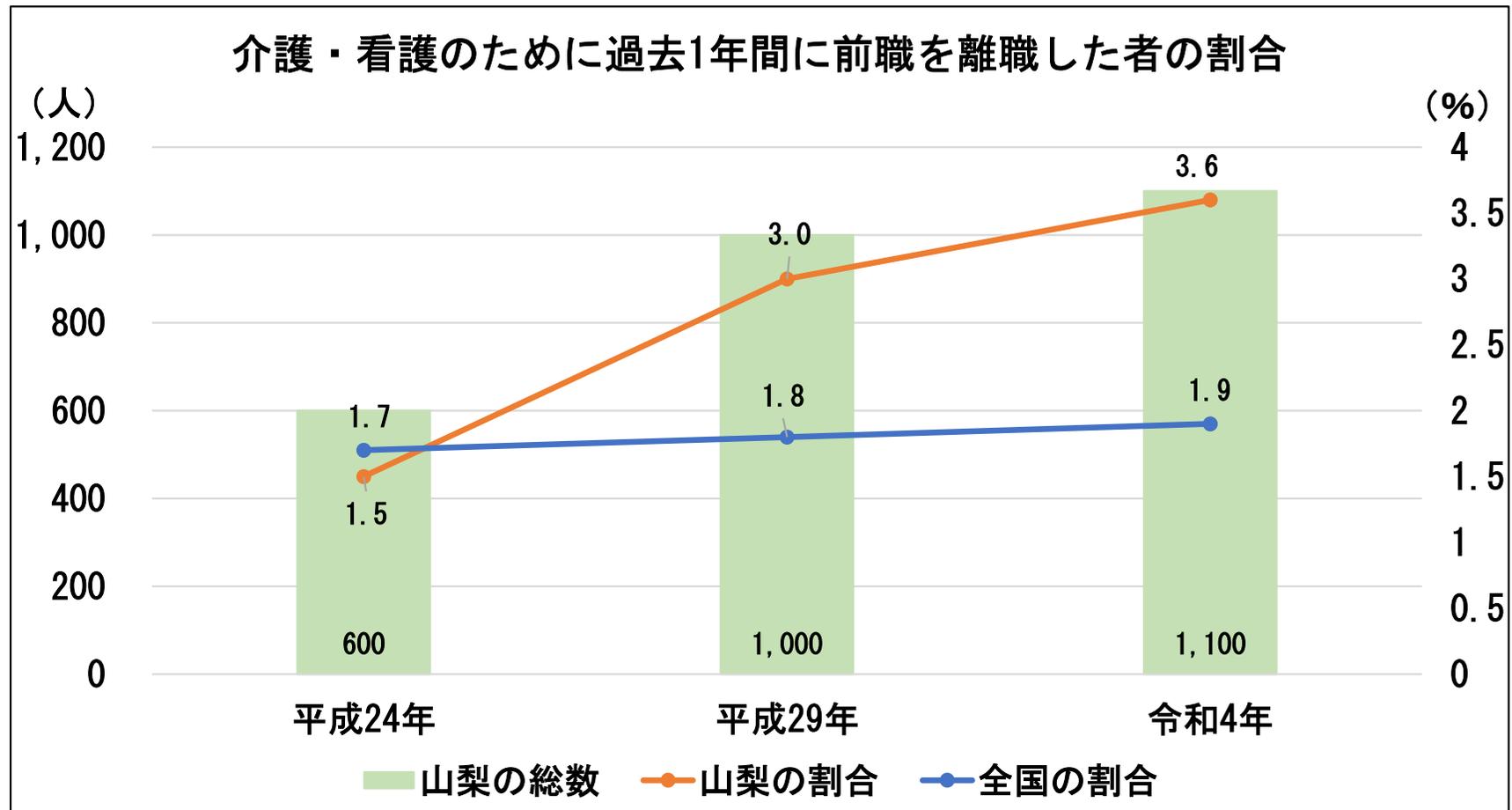
- 介護をしている者の有業率は増加しており、全国平均を上回っている。
- また、令和4年は全国で3番目に高い。



(出典：総務省 就業構造基本調査)

介護・看護を理由とした離職率

- 過去1年間（R3.10～R4.9）に前職を離職した者のうち、「介護・看護のため」に前職を離職した者の割合は増加しており、全国平均を上回っている。
- また、令和4年は全国で3番目に高い。



(出典：総務省 就業構造基本調査)

- 2025年に団塊の世代全てが75歳以上の後期高齢者となるため、介護を必要とする人の割合は、今後、急速に増加することが予測。
- 本県が先進的に取り組むヤングケアラー、男性ケアラーの問題に加え、仕事と介護の両立、子育てと介護が重なる「ダブルケア」の問題も生じており、これらを踏まえると、ケアラーへのサポートは急務。



- 県民誰もがケアラーになり得るという前提に立ち、
「介護離職ゼロ社会」に向けた取り組みを検討していく必要。